



博多あん通信

第7号 2009年6月1日 発行
博多あん(安全)・あん(安心)リーダー会
〒810-0041 福岡市中央区大名 2-6-46
市立青年センター5F
福岡市 NPO ボランティア交流センター BOX 52 番

平成21年度 定例総会開く

事業計画など決まる

NPO法人化の検討開始へ

博多あん・あんリーダー会の平成21年度定例総会が4月25日(土)午後1時からよみうりプラザ(読売新聞西部本社1階)で開かれ、新年度の事業計画や役員陣容などが決まった。

総会には、会員74名をはじめ来賓3名が出席、福岡市の防災・危機管理課 坂本秀和課長のご挨拶があったあと議事にはいり、平成20年度の活動報告と決算、同21年度の事業計画(活動計画)や予算、新役員選出などについて討議、出席会員による種々の質問、提案等を経て、1~6号議案が幹事会提案通り承認された。

とりわけ、新年度事業計画の特徴の一つに挙げられるのは、会の設立趣旨である「自助」「共助」の精神を実現するために必須となる、事業基盤を確立するという「第2の草創期」の意識の下に、NPO法人化も視野に入れて検討を開始する点。ほかにエリア支部活動の活性化や会員活動の深度化を図っていくことも確認された。

総会終了後、各エリア支部のミーティングを実施、更に希望者による懇親会も同社10階のレストランで、45名が参加して盛会裡に開催されました。



熱心に討議が行われた定例総会

平成21年度の主な事業計画

- (1) 会員の知識、実践力の向上を目的とした研修会等の開催
スキルアップ研修会(年2回以上)・DIG等のファシリテーター育成
- (2) 第5期「博多あんあん塾」での「あん・あんリーダー」の養成協力
- (3) 会員向け広報誌「博多あんあん通信」の発行(年4回)と内容充実化
- (4) エリア活動の充実による地域貢献を進める
- (5) より主体的、自律的な会の運営、事業活動の展開を図るため、相応しい組織のあり方について、NPO法人化も視野に入れて検討を開始する



鹿毛勝昭・代表幹事の挨拶



和やかに総会受け付け風景



坂本・市防災危機管理課長を始めとする来賓の方々

平成21年度の定期総会で代表幹事を再び仰せつかった鹿毛でございます。池田 昭・代表幹事(前)らとともに2年間、いろいろな事業について会員各位をはじめ関係ご当局のご指導を得ながら、地域活動に積極に取り組んで参りました。

新年度は、会の設立趣旨である「自助」「共助」の精神を実現に向かって大きく前進させなければなりません。その必須条件となるのが会の自立的事業基盤の確立であり、このために「第2の草創期」との基本認識の下、これまでの取り組みを礎に地域活動の深化を目指す所存であります。このことによって、更なる地域への貢献と会の発展が図れるものと強い思いしております。

どうか、会員の方々による事業へのご参加、一層のご協力を重ねてお願い申し上げます。

地域防災はお母さんたちが主役だ!

板付校区(博多区)に「お母さん防災大学」が開校、7月21日(火)午後3時から板付公民館を会場に第1回講座がスタートする。防災士の安田哲夫さん(4期生)が中心になって準備を進め、板付校区自主防災会と板付公民館のバックアップで漕ぎ着けた。地域で地震や豪雨禍など大災害が突然発生した時、子供ら家族を守るのは身近なところにいるお母さん達女性の力に負うところが大きい、という考え方。講座は毎月1回、第3火曜日に開講。カリキュラムに基づいて約2時間、地震を中心に救急・救命などについて実技を交えながらの計5講座を予定している。対象は板付、諸岡、麦野の3地区の女性で、募集人員は30名。問い合わせ先: 板付公民館 tel 092-581-1117

平成21年度の新役員陣容が下記の通り決まった。(敬称略)
(1年間、よろしくお願いいたします)



和やかに懇親会

総会後に催された懇親会は、笑いに包まれた和やかな雰囲気。いくつかのグループが自然に出来、1年間に関わって来た防災活動のケースを話題にしたり、これから取り組もうとする地域連携への意気込みを語り合う会員たちの姿も見られた。



役職	氏名	期	組織担当	新任	
幹事	博多	小森 勝輝	1	代表幹事(副会長)	
		松村 秀豊	1		
	中央	武島 功一	4		新任
		濱本 朋久	2		〃
		阿比留 哲	4	広報(部長)	〃
	東	松嶋 慧一	1	書記	
		桑宮 昭志	2	代表幹事(副会長)	
	南	砥上 辰繁	1	広報	新任
		池田 昭	1	書記	
		松本 淳也	2	(名簿)	
	西	本田 卓実	3	広報	新任
		上田 幸子	2		〃
竹尾 宗二		1	広報		
城南	別府 寿男	2	事務局長		
	米村 信幸	2		新任	
	牧菌 典浩	4	会計(事務局次長)	〃	
早良	木村 健司	3	研修(部長)		
	藤田 昌克	1	研修		
	鹿毛 勝昭	2	代表幹事(会長)		
監査	福山 誠	1	監査		
	宮本 雅信	1	〃		
相談役	石井 孝	1			
参与	岩永 芳人		読売新聞西部本社広報宣伝部		
顧問	坂本 秀和		福岡市役所 防災・危機管理課長		
	泉 正彦		中央区役所 総務課長		
	淵上 章	1	スポーツ報知西部本社社長		

編集後記

中国の古典・後漢書に「疾風知勁草(疾風に勁草を知る)」というのがあります。私は、この言葉に込められる意味深さに惹かれます。疾風が荒れ狂う草原にあって、叩きに叩かれても頭を持ち上げ、茎を揺らしながら厳しい逆境に立ち向かう強い雑草を「勁草(けいそう)」と言います。若干、理想論も含めて申しあげれば、巨大地震など大災害に遭遇した時、窮地にある人々の救命を躊躇(ためら)わないのが私たちの姿勢であるのでしょうか。あんあん通信の編集を手がけながら、ふと、疾風の中で凜として真価を発揮できる「勁草人間」に少しでも近づくことができたらなァ、と呟きを洩らした次第です。

紙上をお借りして、積極的なご投稿など皆様のご協力を改めてお願い致します。(阿比留)

マンションに自主防災会が誕生

住民のコミュニティが下支え

県西方沖地震で大きな損害を被った福岡市中央区の高層マンションで、互いに助け合う自主防災会組織が誕生した。被災マンションの再建・復興時に示されたコミュニティの力学が今回も下支えとなった。

市内のマンション群で例がないと言われる単独の防災会を立ち上げたのは、同区今泉2丁目の天神ロイヤルガーデン(15階建て=108世帯)。元管理組合理事長の阿比留 哲さん(防災士)が1年前から管理組合発行の「マンションだより」や住民総会など、いろんな機会を捉えて防災態勢の強化を求めてきた。阪神・淡路大震災を引き合いに出し、隣人の力がどれだけ救命率を高めていたか、といった点を強調。警固断層による巨大地震など大災害が発生しても「犠牲者を出さないようにしよう」と共助組織の立ち上げを訴えた。

西方沖地震から4年目の平成21年1月「機は熟した」とみた阿比留さんは、理事会とは別組織としての防災会の設立を管理組合定時総会で正式に提案、全会一致で賛意を取り付けた。こんどは、設立趣意書や規約、組織図、役員候補名簿などを揃え、4年後の「その日」に当たる3月20日の午前、防災会設立総会に提示、スタートを切った。

当マンションが加わる警固校区自治協議会の会長をはじめ市の副市長、防災・危機管理課長、福岡マンション管理組合連合会の理事長、それに防災士仲間、取材のテレビカメラなどが見詰める中での誕生となった。一般的に隣人の接触が希薄といわれるマンションで「手を差し伸べ合う共助の組織が出来た意義は大きい」と評価する関係者は少なくない。

こんど、救出・救護、避難誘導、炊き出し訓練などの積み重ねや危険個所のチェック、要援護者の名簿作りなど防災組織図の骨格に肉付けを進める一方で地域との融合を積極的に図っていく方針でいる。同マンションは県西方沖地震で半壊、借入金を含め2億6,000万円で耐震構造を強化した躯体としていち早く復興させ、話題となった。



安全・安心の「セーフティー・ネット」の構築を目指す
自主防災会の設立総会(大名MKホールで)